

紀元 2634年
西歴 1974年

大豊

館報

昭和49年元旦



ことは遠く飛鳥時代、奈良時代初期から用いられてきた伝統ある弦楽器である。平安時代には独奏あるいは管弦合奏に用いられ、江戸時代に入って、大名、武家、儒者、画家などに愛好された。山田流、生田流などがあり、流派により爪の形や、すわる角度も違うようであるが、やや斜めにすわるのが生田流である。
尺八もまた日本の管楽器で、古代は「雅楽尺八」ともいわれ管弦合奏に用いられた尺八寸の縦笛で江戸時代には、宗教的意味と興味の雰囲気をもつ自由リズムの独奏に用いられた。明治初年荒木古童を中心とする琴古流は、楽譜の改良など尺八の普及に努力し、特に地歌、琴曲との合奏に力がそそがれ現代に至った。＝モデルは文化推進協議会長上西国義(川口南) 小川孝子(杉) 釣井幸子(船戸)

明るく住みよい町づくりへ

きびしい時代に対処

大豊町長 門田盛一郎



輝かしい新春を過ぎ
謹んで年頭のごあいさ
つを申し上げます。
町民の皆様、明けま
しておめでとうござい
ます。昨年は議会並びに町民の皆様方の力強いご協

力のもとに、道路網の整備や、教育環境、老人福祉施設、消防施設等の整備事業をはじめ、住みよい生活づくりのための防災事業、集落補強、農林業の振興、教育文化振興等、住民生活に直結した諸事業を資

年頭の辞

然しながら、既に述べましたように、我が国を取り巻く内外の情勢は真に憂慮に堪えないものがあります。いすれに致しまして、一万二千町民の皆様と共に厳しいなかにも「明るく住みよい、調和のとれた町づくり」をめざして最善の努力を尽したいと存じます。
議会並びに町民の皆様、どうか本年も町政発展のために、旧倍のご指導、ご協力をお願い致しますと共に、皆様のご多幸を心からお祈り申し上げます。新年のご挨拶と致します。

豊かな暮らしを 町政発展に努力

議会議長 寺石由雄



町民の皆様、明けましておめでとうございます。

皆さんお元気で新年を迎えのことと心からお慶び申し上げます。一年の計は元旦にありと申されますが皆さんも大きな希望に胸をはずませて一年間の計画をお立てのことと存じます。
私達議会人も町民の皆さんが豊かな生活ができて、明るい日々を送ることができ、ますます、意を新たに町政発展に努力致す所存であります。
ご承知のように昭和四十八年の日本は、内外共に波乱の多い年でありました。特に果て知らぬような物価の上昇、終戦直後以来、体験することのなかった経済統制ムードの深まり等、まことに不安な年でありました。本町におきましても、こうしたことによる公共事業の遅延、財政事情の窮迫等色々問題はありましたが、の皆様の協力によりまして所期の目的を達成し四十九年の新しい年を迎えることができました。衷心より感謝申し上げます。

111名が成人に 15日中央公民館で成人式

一月十五日は成人の日で国民の祝日です。ことし成人になられる方々は、昭和四十八年一月十六日から、二十九年一月十五日までに生まれた男女で、大豊町では一名(男五七人、女五四人)がめでたく成人となります。
この日は、中央公民館で例年のように成人式を行ない記念品を贈って、はたはかどを祝うことになっております。全戸にの丸をかかげ町民とぞってこれら若者達の前途を祝福しましょう。

然し乍ら、本年は石油不足に伴う諸物価の上昇は更に拍車をかけるものと思われねばなりません。今後政府の施策に期待することは勿論であります。これらの問題解決には国民の深い関心と積極的な協力がなくてはなりません。私達議会も、こうした我が国をとりまく内外情勢の変動、国民意識の変化に対応して「活力ある福祉社会」の実現を図らなければならぬと考えます。そのためには健全財政の確立を主眼として、常に世論の現状を把握し、時代に即応した計画的総合的な行政を通じ円滑な議会運営を推進し、明るい大豊町の建設に努力致す所存であります。
どうか本年も絶大なご支援とご協力をお願い致します。新年のご挨拶と致します。



明けまして
おめでとう
ございます

大豊町議会

総務常任委員会

委員長	北村 勝夫
副委員長	松岡 孝行
委員	上村 孝行
委員	小笠原 春
委員	松岡 友
委員	岡崎 友
委員	鈴木 友

建設常任委員会

委員長	桑名 芳雄
副委員長	小笠原 武
委員	上村 弘
委員	秋山 弘
委員	田村 弘
委員	上田 弘
委員	村辺 弘
委員	周正 弘

産業経済常任委員会

委員長	山中 茂栄
副委員長	大坪 俊四郎
委員	西村 彦
委員	吉川 永
委員	美濃 英
委員	西岡 丈
委員	岡崎 丈

教育民生常任委員会

委員長	畑山 善郎
副委員長	大野 幸二
委員	上村 武
委員	上村 武
委員	宮内 正
委員	宮内 正
委員	宮内 正

議会事務局

局長	重森 元亀
----	-------

老人ホーム
大豊園

川戸西豊永
小学跡に完成

嶺北養護老人ホーム一部事務組合立大豊園養護老人ホーム（三谷博親園長）は昭和四十七年十二月二十一日起工、四十八年九月末完工、同年十一月五日嶺北町村長及び議長、県知事代理等関係者多数臨席のもとに盛大な落成式を行ない、翌六日開園、二十余名が入園して老後を安楽に過ごしています。

新築された本館は、大豊九四平方呎。施設の主なる内
容は、一室四人定員の居室一八室、二人定員の居室一
四室、このほかに静養室、事務室、医務室、寮母室、
面所、機軸室、倉庫などてい

立上旧西豐永小学校跡地として建設されたもので、社
会福祉施設等施設及び設備事業として昭和四十七
年九月一日より、男女浴場、便所、洗
濯室、洗濯室、盥
洗室、機械室、食庫などで
総事業費、一億二千三百四十
九万一千円となつていま
す。

まず十二名入園

ている老人は二十二名、職員数は園長、栄養士二名、看護婦一、事務員二、寮母四名、調理員三名で事業のあらましは次の通りです。

事業のあらまし

一、事業目的

この施設は、老人福祉法による養護施設でありまして、満60才以上の者で、身体上、精神上、又は環境上及び経済的理由により居宅において養護を受けることが困難な方に入園して頂きまして、老後における心身の健康

新年に想う

主婦の努力でよい社会を

上東白石絹恵（73歳）

新年を迎え、もうすぐ私現代のことは何も判りませ
も七十四才の老人となりま
んが、昔子供の頃かおのこ
す。今では何一つ心配なこ
とをつくづくと思ひおかし
ともなく、余生を送つてお
てみれば、まことに世の中
の変わり方早いにおどろ
ります。これは社会のお蔭
きます。そこで一筆申し上
げます。

校教員も進んできましたが母なる人はどんなに思つて教育をしていられるのでしよう。二人か三人かを育てあまやかに自然にたくに、小遣いなども沢山やり衣類なども金の高い、はでな衣類を着せ、通学させ（女の子）子供は自然に金すの有難み、時間の尊さを忘れてはいまいか？

先生方を敬い、学びの道にいそしんでおられるのではいつもでも平和な時ばかりではありますまい。どんな世に出会ふかはわかりません。子供の時から少しの金も預金してその有難みを知らしてあげたい。

話は変わりますが、校門（大田口校）の二宮尊徳先生の御像のお話にうつります。二宮先生が幼時小さな苦勞して勉強されたか又大きくなって世の中にくされたかなど知っているらしく、これは私の云い過ぎかも知れません。私の祖父は九十三まで生きて頭もすっかりして子供によい話を沢山してくれました。そしてその話の一つもくづがなかったことに今更驚きます。今日はこれで筆を止めます。

どうか良い子供を育て、益々明るい良い世の中になるよう祈ります。どうぞよろしく。

明治の教育を受けた私は
養護を行なう事を目的と
した施設であります。

先づ子供の家庭教育、学

ようか？。世の中というも

生徒がどれだけ居るであろ
等について伺います。
す。そしてその方が起居

なお、各団体、篤志家等から頂いた慰問品のお

保持と、生活の安定を図り、日々を楽しく安心して過せる事ができるよう

二、入園者定数 一〇〇名

三、入園手続

大豊園を慰問

地元川戸婦人会の皆さん

財源内訳は、国庫補助金三千八百四十四万八千二百、県費補助金二千九百八十二万四千二百、組合祭三千七百五十万円、残り二千八百三十一万九千円は一般財源であり、以上が一部事務組合で行った工事概要で、関連工事として八百三十三万円で幅員四路、延長百三十メートルの取付道路および一千三百水道で給水のための簡易水道施設が大豊町負担として施工されました。

十二月十日現在、入園し

登園が完成したのでをよこ
ぶ地元川戸部落の婦人会の
方々は、このほどモチをつ
いて大豊園をおとづれ、新
しく入園してきた二十二入
の老人たちをねんごろに
問した。慰問後一同は
間で園長の説明を聞き
し合いのち内部を見
て認識を深めた。

園長の説明に聞きいる婦人会の方々

六時三〇分) 各自洗面後自室の掃除

朝食	午前七時三〇分
昼食	午前一一時四〇分
夕食	午後四時三〇分

上記が定められた日課でありましてそれ以外の時間は自由時間で付近の民家の手伝いや、内職等の従事あるいは散歩や園内でテレビ、ラジオ、新聞等を見て楽しむ時、又数人寄合いの雑談に時を過す事など全く自由に日々

には特に配慮し伝染病その他病気の早期発見と予防につとめます。又、定期的に健康診断を行い嘱託医が随時治療、投薬に当る一方、病弱者は静養室にうつって頂き、看護婦が看護に当る事になっております。

尚又、病氣によりまして、専門医に受診したり入院治療を必要とする場合には、委託を受けている福祉事務所の承認を得て医療扶助等の適用を受

氏年金「谷間老人」に対し、今度の国民年金の改正により「老齢特別給付金」が支給されることになりました。

歳に達しますと月額五千元の老齢福祉年金に移行します。

た高須の笹岡くならまし
幸勢氏より、交通遺児更生
資金にと金三万円をご寄贈
いただきましたので早速町
内の交通遺児十二名に地球

合二万五千円、東土居秋山
僧吉一〇万円、長香生コン
KK一〇万円、大豊開発五
万円、南小川建設KK二万
五千円、落合建設KK二万

を過すことができます。

(3) 貸与品支給品

貸与品……寝具、その他
支給品……衣類、タオル
石けん、チリ
紙等の日用品

け園外治療をすることもできます。

これは明治三十九年四月一日以前に生まれた人で、国民年金の拠出制（保険料納付）が開始された昭和三十六年四月一日に、五十五歳をこえ、現在六十七歳と十九歳台のご老人に対し

わせのうえ、給付金の請求
 手続をなさってください。
 (住民課年金係)
 交通事故防止のため
 浄財ご寄附

儀等の学用品を配布いたしました。

交通安全施設（カーブミラー）寄附者名簿（順序不同）

東土居上村茂明一〇万円、馬瀬香川善六五万円、太王下小笠原武英五万円、梓建

五千円、東土居豊永ハイヤ
一五万円、高須大豊ハイヤ
一五万円、東土居西谷染工
場二万五千円、西峰三協運
送五万円、南国市猪野範隆
五万円、高知市安岡元雄二
万五千円、大豊縫製小笠原

五、給食 類
老人福祉法に定められた生活費の六五％程度が給食費にあてられます。主食は一日米三六〇グラム（約二合五勺）程度を副食は季節に準じ、在

開き心が安らかになるような行事も行ないます。娯楽設備としては、テレビ、ラジオ、ステレオ、碁、将棋、新聞、雑誌、各種圖書を備えつけ入園者の利用に供します。

国民年金の拠出制老齢給
金を受けられないで、しも
も満七十歳になるまで老齢
福祉年金の恩恵も受けるこ
とのできない、いわゆる同

法の改正で
老齢特別給付金
月額4千円が支給される

民年金「谷間老人」に対して、今度の国民年金の改正により「老齢特別給付金」が支給されることになりました。

これは明治三十九年四月一日以前に生まれた人で、国民年金の拠出制（保険料納付）が開始された昭和三十六年四月一日に、五十五歳をこえ、現在六十七歳く六十九歳台のご老人に対しても、年金を支給しようというもので、昭和四十九年一月から月額四千円の老齢特別給付金が支払われることになりました。

ただし、所得制限や公的年金受給制限などがあり、老齢福祉年金と同じ取り扱いはなりません。なお、七十

歳に達しますと月額五千円
の老齢福祉年金に移行しま
す。

受給資格のある方は、役
場の国民年金係にお問い合わせの
うえ、給付金の請求
手続をなさってください。

(住民課年金係)

交通事故防止のため

~~~~~

浄財ご寄附

交通事故防止は全町民の  
悲願であります。今回安  
全施設費にあててほしいと  
次の方々から尊いご寄附を  
いただきました。町民会議  
では、交通の危険地点に逐  
次カーブミラーを設置して  
事故防止に備えています。  
また、交通事故のため亡

た高額の征収くなられました。幸勢氏より、交通遺児更生資金に金三万円をご寄贈いただいたので早速町内のだきま遺児十二名に地球儀等の学用品を配布いたしました。

交通安全施設（カーブミラール）寄附者名簿（順序不同）

東土居上村茂明一〇万円、馬瀬香川善六五万円、太王下小笠原武英五万円、梓建設K五万円、北星勧業K一五万円、大畑井部落二万五千元、吉川永晴二万五千元、立川井部落二万五千元、一の谷部落二万五千元、一の谷部落二万五千元、立川杉本繁太郎二万五千元、清水産業K二万五千元、千本部落成川納税組

合二万五千円、東土居秋山  
信吉一〇万円、長香生コン  
KK一〇万円、大豊開発五  
万円、南小川建設KK二万  
五千円、落合建設KK二万  
五千円、東土居豊永ハイヤ  
ー一五万円、高須大豊ハイヤ  
ー一五万円、東土居西谷染工  
場二万五千円、西峰三協運  
送五万円、南園市猪野開隆  
五万円、高知市安岡元雄二  
万五千円、大豊縫製小笠原  
覚太郎五万円、大田口森下  
英亀三万五千円、川戸長香  
生コン運転者一同二万五千  
円、本山町津田政範二万五  
千円、豊永ハイヤー上村邦  
文三万五千円、落合高橋康  
彦一〇万円。

貸与品……寝具、その他  
 支給品……衣類、タオル  
 石けん、チリ  
 紙等の日用品

### 五、給食

老人福祉法に定められた生活費の六五％程度が給食費にあてられます。主食は一日米三六〇グラム（約二合五分）程度で副食は季節に応じ又、在園者の嗜好と栄養を考慮して、栄養士の献立に基づいて調理するようになっております。

敬老の日、開園記念日、祝祭日等には特別献立の馳走に飲食もつけ全員が楽しく飲食することになっております。

七、教養娯楽  
入園される方は、過去の不遇や不幸のため悩み事が有る人も少なくありませんので宗教講話等も開き心が安らかなるような行事も行ないます。娯楽設備としては、テレビ、ラジオ、ステレオ、碁、将棋、新聞、雑誌、各種図書を備えつけ入園者の利用に供します。又、各方面からの慰問演芸等もあります。

\*\*\*  
◎非常災害対策  
園内はすべて、消防法に定められた基準通りの消防設備、器具を設け各室部屋は火災報知設備が完備しております。



完成した大豊國の一部（左が正面玄関）

園長の説明に聞きいる婦人会の方々

